

国際部通信 第9号



新しい地図帳に 描こうよ われらの航路

夢とコンパス持って 大地と海越えて

Our Global Spirits Our Global Spirits

今 思い切り生きるために 進みゆく あさか開成高校



発行：あさか開成高等学校

国際部

発行日：令和2年8月26日

8月20日、放送で行われた「夏季休業明け集会」において、校長先生が話された内容です。もう一度読み直して、「今私たちがすべきこと、できること」について考えてみましょう。

～夏休み明け集会 校長講話（一部）～

現在、新型コロナウイルスの感染は拡大している状況にあります。他県では高校での集団感染も見られ、郡山市内でも感染者が増えつつあります。新型コロナウイルスはいよいよ身近に迫っています。どうか、みなさん、感染防止のための行動を実践してください。自分の体調を管理し、発熱など体調不良のときは学校を休んでください。熱中症の心配がない状況では、マスクを着用し、手洗いを徹底してください。換気とソーシャルディスタンスの確保もお願いします。すでに、中途半端な対策では感染拡大を防ぐことができない状況です。みなさんひとりひとりの感染防止の努力を強くお願いします。

さて、昨日のことですが、郡山市内でこれまで公表されたコロナウイルス感染者やその家族に対し、誹謗中傷等、差別するような行為があった、と郡山市長が明らかにしました。また、4月、須賀川市で感染者が発生した時には、全く関係がない人が感染者であるというデマがインターネットで流れ、患者とされた人の家族が経営する小売店の店名はもちろん、家族構成などがインターネットに書き込まれるという事件がありました。さらに、近くで感染者が出たという理由で、近所の飲食店で予約のキャンセルがあり、この小売店経営者は、被害者でありながら「近所で迷惑をかけて申し訳ない」という心境になったそうです。噂が気になり、外を出歩くのが怖くなったとも言っています。デマを流した人は特定され、逮捕されましたが、職場で耳にしたうわさを書き込んだと、動機を言っているそうです。

皆さんが日頃学習している、差別、偏見や誹謗中傷等の人権問題、デマの拡散やフェイクニュースなど情報モラルの問題が、まさに、今、ここで発生しているのです。あさか開成高校の生徒として、今、身近で起こっている、こうした課題をどう考えますか？

国際科学科の生徒として学ぶべき、そして解決すべき世界の様々な問題・課題は、必ずしも遠くの国にあるわけではありません。私たちのそばにもあるのです。今、海外修学旅行や海外研修など、あさか開成高校の学びの特徴である、国外での学びが困難な状況にあります。しかし、こうした状況にあるからこそ、国際科学科で学ぶ生徒だからこそ、自分の周りにある世界に目を向け、その問題・課題の解決に知恵を絞り、行動することが、国際社会で生きるために必要な力をつけることなのです。繰り返しますが、世界共通の問題に、今だからこそ、そして身近にあるからこそ、直接、そして継続して取り組めるのです。このことは、国外での経験と同等か、それ以上に意義のあることだ、と私は思います。

新型コロナウイルスの感染者となる可能性はだれにでもあることです。その人やその人の家族のせいではありません。感染を防ぐことについても、差別や偏見を防ぐことについても、人ごとではなく、自分自身に関わる問題と捉えてください。

私たちは今、コロナウイルスによる社会の変化の時期、歴史の転換点にいます。だとしたら、この状態を嘆くのではなく、将来このピンチをチャンスとして人類は進歩した、その進歩した未来づくりに自分は確かに参加した、と後から振り返ることができる行動をしましょう。そうであれば、この試練も無意味ではないはずですよ。

参考文献 福島民報 2020年6月22日

「須賀川の新型コロナネット虚偽情報事件 デマ、どこから」

